



Via Latina 22

2023年11月 325号

総本部よりのお知らせーマリア会

Thomas Terrill士 (ME) が終生誓願式	1
The Madeleine: 私たちのカリスマ的力強さを活用する	2
ローマのシャミナード国際神学校	4
新しい養成者の研修のためのナザレ・プログラム	5
Saint-Anselme のマリア会員への称賛	7
総会に向けての準備の継続	8
マリア会第36回総会のロゴマーク	8
Michel Quiroga の逝去25周年記念	9
2023 - 2024年の国際名簿が間もなく届きます!	11
感謝を捧げる日	11
世界マリアニスト祈りの日	12

Thomas Terrill士 (ME) が終生誓願式

10月8日、日曜日、メリバ管区は喜びの中にThomas Terrill士の終生誓願式に列席しました。誓願式は、アメリカ、ニューヨークにあるミネオラのマリアニストシャミナード共同体での特別な主日ミサという背景のうちに行われました。管区のマリア会員に加え、Thomas士の両親と家族、そして家族と共同体の友人たちが式典に加わりました。一つの特別な喜びは、この誓願式のためデイトンからの2名のUSA管区の修練者を招いたことでした。

副管区長、Thomas Cardone師がこのミサを司式し、管区長、Timothy Driscoll士が誓願を受け入れました。シャミナード高校の敷地でのお祝いの宴が、誓願式全体を特徴づける喜びに満ちた兄弟愛を引き続き醸し出しました。

Thomas士はシャミナード高校で教師であり、そして学校の経営に関わっています。彼は学校のあらゆる活動に積極的であり、教師たちと生徒たちから尊敬と好感を得ています。マリア会に加わる前

に、Thomas士は法律を学び、その後試験を通して弁護士資格を得ました。



**Timothy Driscoll士 (管区長) が
Thomas Terrill士の終生誓願を受け入れる**

私たちはThomas士がその召命の継続的成長において神のあらゆるお恵みに満たされるよう祈願します。彼の寛大な献身に感謝し、私たちはマリアニストとしての彼の生活と福音宣教のため豊かな祝福をお祈りし、また私たちの聖なる母マリアにその絶え間ない保護をお願いします。



**左より：Timothy Driscoll 士(メバ)、Thomas Terrill 士(メバ)、
修練者のJosé Manuel Gutiérrez (Pepe)、
Carlos Alexis Román (米国)**

The Madeleine：私たちのカリスマ的力強さを活用する

皆さんの多くがすでにご存じのように、総長評議員会とフランス地区は、2022年7月に行われた総指導者会議の間の討議に従い、マドレーヌ聖堂とそこを拠点とするマリアニスト共同体の宣教活動を支援する計画に積極的に関わってきました。私たちはそこでのマリア会の生活と宣教活動を強化するステップを実行し始めました。私たちはボルドーの人々だけでなく、世界マリアニスト家族に対する

使徒的任務をもつ活動的で創造的な国際共同体を目指しています。私たちはこの創立の地のもつ独自の力を再生すること、またこの恵みをもっと広範囲に普及させるという見通しにワクワクしています。マドレーヌは、200年以上もマリアニストの生活と宣教活動に生気を与えてきた福者シャミナードから受けついだマリアニストカリスマという私たちの遺産とシンボルの中で、非常に重要なものなのです。

かねてからの広範囲にわたる準備期間を経た2023年9月に、現マドレーヌ協会の会合が総指導者会議の時に開かれました。André師とMax士が総長評議員会を代表し出席され、フランス地区とヨーロッパマリアニスト会議メンバーも出席しました。この会議で、マドレーヌ協会は其の宣教活動の目標に沿った新たな規則と、その規則のガイドとなる新しい運営機構を取り入れました。さらに、再編された協会に相応しいメンバーと役員との正式な任命が承認されました。さらにまた、財務構造が、マドレーヌの管理部とその地のマリア会共同体との協力の下、総長評議員会の指導を得て入念に検討されており、その結果、彼らのその時々必要事は満たされ、彼らの宣教活動の遂行能力が保たれています。それには、結果的に私たちのマリアニストカリスマについて長期にわたって知識と理解を深める時間をそこで過ごしたい人たちを支援することができるという希望をもって、彼らの宣教活動を支えるために設けられた特別基金が含まれています。マリア会のいくつかの行政単位は継続的な財政支援を行うことを寛大な心で保証してくれています。そのことに私たちは感謝しています。



マドレーヌ協会の会合 2023年9月

Hervé Guillo du Bodan士がマドレーヌの責任者に任命されています。彼はここで司牧とカリスマ両方の養成プログラムの指揮を執ります。特に彼はボルドーの信者たちへの司牧活動のまとめ役となります。彼はまた共同体の院長の任務を引き受けました。Emilio Cárdenas師が養成部門の指導者として活動することになります。マドレーヌの活動と共同体両方の責任は、フランス地区の支援を得て、総本部へ移ります。現在の共同体メンバーはここに残ります。この共同体は既に国際的性格を帯び初

めており、やがてこの性格が成長するのを期待しています。同様に、私たちはマドレーヌの資源をマリアニスト家族全体で分かち合うことを楽しみにしており、それにはアジャンでのFMIとの養成に関する特別な協力も含まれています。

この移行においてまだ取るべきステップがありますが、私たちは今日まで私たちを支援して下さいました全ての皆さんに感謝します。私たちはこの新しい組織が新たな年の初めにはフル稼働していることを期待しています。私たちはこの件をあなた方の祈りの中に留めるようお願いし、そして私たちは創設者である福者ギョーム・ヨセフ・シャミナード師に、ご自分が始めそして私たちに残したこの偉大な宣教活動の成功のために、特別な取り次ぎを嘆願します。

このプログラムは、参加者一人ひとりがマリアニスト共通の召命を新たにするのに助けとなるお恵みと出会いの機会でした。

ローマのシャミナード国際神学校



2列目、左より立って: Frédéric Bini, 副院長 (トーゴ, トーゴ地区); Messi Loubiya (コンゴ・ブラザビル, コンゴ特別地区, フランス地区); Gilbert Okade (ケニア, 東アフリカ地区); Epidius Ngosa (ザンビア, 東アフリカ地区); Showrry Ravulapalli (インド, インド従属地区, 米国管区); Claudel Noël (ハイチ, コートジボアール従属地区, フランス地区); Miguel Ángel Cortés, 院長 (スペイン, スペイン管区); Yves Agbadou (コートジボアール, コートジボアール従属地区, フランス地区)

1列目、左より跪いて: Raoul Rouamba (ブルキナファソ, コートジボアール従属地区, フランス地区); Christophe Mbonde (コンゴ・キンシャサ, コンゴ特別地区, フランス地区); Patrick Cahill (米国, メリバ管区); Daniel Orellana (チリ, チリ特別地区, ラテン・アメリカ地区)

今年ローマのシャミナード国際神学校は、この写真でお分かりのように、神学生の数と出身地の多様性において大きくなりました。12ヶ国から12名の兄弟たちが来てマリア会の異なる8つの行政単位に属しています。この理由で、今年のコミュニティのゴールの重要目標の一つを次の通りにします：“多様な文化と国際的なコミュニティにおいて、私たちは豊かさとして多様性を生き、そして頂いたあらゆる個人的な賜物を他の人への奉仕に向けて、兄弟愛を築くことに献身します。”今年度は9月に予定されている2つ

の活動から始まります：一つはスペイン管区のEnrique Aguilera師が行うシャミナード師の書簡についての講座、そしてパランツァのマリアニスト共同体にてフランス地区のEddie Alexandre師によって指導される年次黙想会です。さらに、共同体はあらゆる分野で少しずつ共同体を組織してきました：共同体ゴールの念入りな計画立案から実行上の組織の課題まで。大学での講義は10月4日に始まりました。

新しい養成者の研修のためのナザレ・プログラム

10月27日、FMIとSMの新しい養成者の研修のためのナザレ・プログラムが終了しました。約10週間にわたり異なる12ヶ国から28名のマリアニスト修道者、修道女がこの会議に参加しました。

VL22の先回発行版で報告したように、8月15日、聖母マリアの被昇天の祝日にケニア、ナイロビのDimesse Sistersの黙想の家でこのプログラムは始まりました。



マリアニストの歴史と養成に関するセッションの終わりに、
Manuel Cortés師 (SM) と Timothy Phillips 士 (SM) を囲む
ナザレ・プログラムのグループ (参加者とチーム)

参加者グループは、日本 (ベトナム)、インド、アフリカ (マラウイとコートジボアール)、アメリカ、そしてラテンアメリカ (コロンビア - エクアドール) の行政単位から8名のFMIと、韓国、インド、東アフリカ、トーゴ、コートジボアール、コンゴ—そしてラテンアメリカ (コロンビア - エクアドール) の行政単位から20名のSMメンバーで構成されていました。

5名のマリアニスト修道者のグループがプログラムを調整しました：メンバーはシスター Teresa Ferre (インド) とシスター Prudence Adoki (霊性局長 - ローマ) そして Martin Solma 師 (米国)、Ignace Pagnan 師 (トーゴ) そして Pablo Rambaud 師 (霊生局長 - ローマ) です。プログラムを準備した最初のチームには他3名のマリア会員が含まれていました：東アフリカ (Eric Otiende)、コートジボアール (Noel Dominique Kouao) とコンゴ— (Romuald N'Lumbu) です。



ナイロビにあるナザレの聖母学校の生徒たちに挨拶するIgnace Pagnan師
(ナザレ・プログラムからの参加者とスタッフ，Timothy Driscoll士の出席のもとで)

プログラムの内容は、私たちの『生活の規則』第一章の基本的テーマに沿って展開され、1週間（或いは2週間）がそれぞれのテーマ：信仰、マリアへの奉献（誓願、堅忍、・・・）、生活と宣教の共同体、マリアニスト家族、に充てられました。これらのテーマの中心に、カリスマの一定の面を深める2週間が充てられました。例えば養成の歴史的進展、徳の体系、混合構成、3部門、そして創立者たちの文書についての一般的紹介などです。このプログラムはまた1週間の祈りと黙想が含まれていました。

プログラムの各テーマは1名か数名の修道者によって調整されました。チームメンバーはいくつかの週を調整しました。例えば、信仰についての週（Ignace Pagnan）、或いは黙想についての週（Martin Solma）です。他のゲスト修道者がさまざまな話題を提供しました：Timothy Driscoll士（メリバ）はCalistus Jeje師（東アフリカ）と共に奉献とマリアについての週を担当しました；Manuel Cortés師は養成とカリスマの歴史について2週間を割り当てました；Chola Mulenga士はJoseph Mwaura、Michael Otieno（東アフリカ）両師と一緒に生活の共同体に関する話題を紹介しました；Thomas Giardino師（米国）は宣教の生活について1週間を充てました。



遠足中のナザレ・プログラムの一行（ナイバシャのクレセント島にて）

これらゲスト講演者とともに、他の多くの男女修道者が実際に出席するかバーチャルで参加しました。さらに、トーゴ地区の2名の会員、Lucien Gnakou士とIgnace Gueba士が翻訳の仕事で助けになりました。

これら全ての人の努力のお陰で、このプログラムを成功裏に進めることができましたが、これがやがて実を結ぶことを期待しています。プログラムの成功のもう一つの大きな要因は、参加者自身の真剣さと積極的関わりによるものです。彼ら全員が聖霊に導かれ、聖母マリアの生き生きとした現存と聖ヨセフの無言の協働によって、この会議が可能になりました。

Saint-Anselme のマリア会員への称賛 (ケベック、カナダ)

10月8日、カナダ・ケベック州のサン・タンセルム市にて、私たちマリア会員の現存85周年を祝う式典が行われました。実は、会員の所有地はその維持が大変難しくなったので、去る7月に4名の会員たちは彼らの住まいを離れ、近くに在る引退者の家に移りました。4名の会員のうち3名は彼らの新たな住まいから司牧的奉仕を行い、1938年に会員たちが初めて到着したその場所で神の民への奉仕活動を続けることとなります。

以前マリア会員によって運営されていた学校と小教区の年配の信徒たちによって計画されたこの式典は、長年にわたり彼らが受けてきたものの奥深さと良質さを表しています。式典の中で、マリア会の総長評議員会からのメッセージと、ケベックの大司教Lacroix枢機卿からのビデオメッセージが皆に紹介されました。以下はLacroix枢機卿からのメッセージの抜粋です：

「あなた方が私たちのために行ってくださった全ての善きことについて、私は感謝を表明したいと思います。サン・タンセルムや他の地域で、皆さんがその若者への愛、皆さんの信仰、皆さんのマリア的霊生、そしてまた皆さんと一緒に働いた家族への愛をもって、私たちの司教区共同体を豊かにしてくださったことに感謝します。皆さんは私たちの中で福音の輝かしい証し人であり続けて下さいます。主が皆さんを祝福し、皆さんと共にいてくださいますように。」



Florian Royer-Chabot師
カナダ地域共同体の責任者

ダイナミックな信徒マリアニスト共同体が、「サン・タンリ・マリアニスト霊性センター」の責任を引き受けています(<https://www.centremarianiste.org/>)。彼らはこのセンターをマリア会員との協働で運営しています。マリアニストの生活は継続しています！ CLMの責任者、Josée Robergeは次のように説明しています：

「2023年10月8日、日曜日、サン・タンセルムのチームはマリア会員への素晴らしい感謝のパーティを計画しました。まさにこの地での85年間のすべての歴史は今そのページをめくっています。約400名もの人たちが式典に参加しました。かつての多くの教師と生徒たち、特別な招待者と小教区の人たちがお祝いのミサに参列し、様々なスピーチと証言、そしてお祝いの食事へと続きました。教区司祭は、マリア会員が生み育てた立派な果実を、単に味わうだけでなく、何よりも更に多くの果実をもたらす種を保つよう私たちに促しました。実際、今果実をもたらすのは私たち次第ではないでしょうか？」



参加者全員 1列目の2人目より：マリア会会員 Florian Royer-Chabot, Gérard Blais, Raymond Boutin, Eugène Côté, Paul-Arthur Gilbert (欠席: Jean-Charles Casista, Jean-Marie Laroche)

総会に向けての準備の継続

共同体と行政単位が総会のための準備の最初の段階を終えた時点で、編集委員会 (RedCo) は受け取った回答を用いて最初の下書き草案を準備しています。RedCoはTimothy Driscoll士 (メリバ) と Rogelio Núñez士 (スペイン-ブラジル) の2名から構成されています。

私たちは参加した全ての共同体と、このプロセスの最初の段階を色々な方法で充実させるべく尽くしてくれた多くのグループ (信徒協働者、若者たち、) に感謝とお礼を述べたいと思います。最初の下書き草案が届いたら直ぐに、総会準備委員会 (PrepCo) は、総長評議会と話し合い、このシノドス的な準備の歩みの第2段階のため行政単位に送られる文書を準備します。PrepCoメンバーは Kondwani Nalivata士 (東アフリカ)、Dennis Bautista士 (米国) そしてPablo Rambaud師 (霊生局長 - ローマ) の3名です。

マリア会第36回総会のロゴマーク

私たちはここにSergio de Miguel士 (スペイン) によって描かれ提案された総会のためのロゴマークを紹介します。このロゴは、マリアとヨゼフと共に居られるイエスの周りに集まる共同体という考えを中心としており、そこでは最も若い人たちが主イエスの近くに置かれ、大人たちに同伴されるべきです。



XXXVI
GENERAL CHAPTER
SOCIETY OF MARY

他の機会と同様、私たちは総会の準備期間中、また総会中に祈るため、祈りを提案しています。この祈りの作者はLuis Fernando Crespo師（スペイン）です。

ご自分の胎内にイエスを宿し、十字架の下で私たちを子どもとして受け入れてくださった聖母マリア、
あなたはいつもイエスを私たちにお与えくださいます。
第36回総会のために、私たちはあなたに祈ります。

総会が識別と出会いの時となるよう、
私たちを聖霊の働きに素直な者とならせてください。

私たちが若者たちをよりよく知ることができるよう助けてください。
そうすれば、私たちは生きた福音であるイエス・キリストを中心とした生活の喜び、
すなわち、喜びの福音を若者たちと分かち合うことができるようになり、
こうして、私たちはマリアニストの修道生活の賜物を、
排除することなくすべての人により良く提供することができ、
また、より公正で友愛に満ちた社会を築き上げるに際して、
共に働くよう人々を惹きつけることができるようになります。

神の母、マリアニスト家族の母なる聖マリア、
私たちのためにお祈りください！

Michel Quiroga の逝去25周年記念

私たちの若き会員、Michel Quiroga (Michel) は1998年9月18日、リョロ（コロンビア）にて公教要理教師グループを守ろうとして準軍隊によって殺害されました。死亡したときMichelは26歳でした。2019年3月、マリア会列聖請願者はその当時の司教区のJuan Carlos Barreto司教に、英雄的愛の行いのために自分の生命を捧げたMichelの列福調査の開始依頼を提出しました。しかしながら、2022年6月、Barreto司教のソアチャ教区への移動でキブド司教区が司教不在の状況となりました。このため、Michelの列福調査の開始が出来なくなっていました。

それにもかかわらず、Michelの記憶はリョロ人々の間で強く生き続けており、年を追うごとにそれが大きくなっています。この理由で、2023年にリョロで彼の逝去25周年記念式典が行われました。9月16日、土曜日に、ラウドスピーカーを付けた車が町の道路を走り回り、彼の霊魂の安息のためのミサに与るよう近隣の人たちに呼びかけました。同時に彼らはMichelの列福調査開始の成功のための祈祷文が記されたカードを配布しました。ミサ聖祭は翌17日日曜日、キブドの無原罪の御宿り小教区にて執り行われ、イストミナ・タド教区の司教であり、キブド教区の教皇代理を務めているMario de Jesús Álvarez司教によって司式されました。共同司式者は主任司祭、教区司教代理、キブド教区の若者たちの司牧を任された司祭、そしてマリア会からはCarlos Julio Barragán師でした。多くの信者たちと小教区でMichelが創設した若者グループのメンバーたちもミサに与りました。翌18日、月曜日、Michelの殺害を示す十字架が建てられた場所であるアトラト川にボートで行く巡礼が行われました。

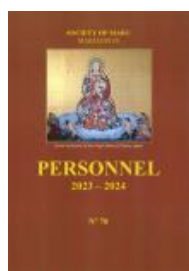


2023年9月17日（日）にMichel Quiroga
の逝去25周年を記念して行われたごミサ
ピュリシマ・コンセプション・デ・ロロ小教区にて

そこでMario Álvarez司教が祈りを先導し、Michelの生活と献身を強調しました。Carlos Julio Barragán師はマリア会への若い志願者、および無原罪の御宿り小教区の「Michel Vive若者グループ」のメンバーと会う機会を利用しました。これら行事は、コロンビア - エクアドール地区の地区長、Pedro Castañeda士、Jesús Obando師とRodrigo Betancur師そしてJosé Reinel Quintero士の協働のお陰で実現することができました。

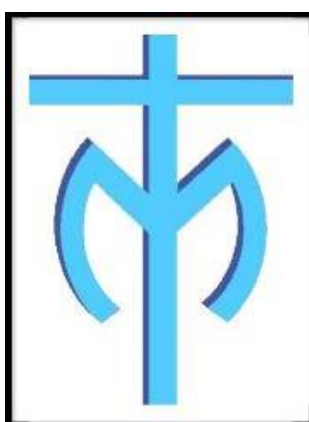
Michelの、召命への熱心さ、使徒的熱意、そして若者への生涯の献身の模範は、信者たちの間で生き生きとして継続されています。私たちは、近い将来新しい教区司教が任命され、私たちの若き会員の英雄的愛の行為の列福調査が開始されるようになることを期待しています。

2023 – 2024年の国際名簿が間もなく届きます！



今年度版、国際名簿が印刷され全行政単位の本部に送付されました。名簿が実際に到着するのは各地の郵便と配達事情によります。私たちはこれら名簿が近いうちに届くことを期待します。これら名簿が行政単位に届いたらいつものように行政単位全体に配布してください。

感謝を捧げる日



1973年10月18日、教皇庁列聖省はギョーム・ヨゼフ・シャミナード師に尊者の称号を発令しました。このニュースはマリアニストと彼らに近い人たちの間で大きな感動を引き起こしました。教皇パウロ6世に承認されたこの発令は次のように言明していました：「神の僕ギョーム・ヨゼフ・シャミナードが神と隣人に対して信仰、希望、愛の対神徳と、賢明、正義、剛毅、節制の枢要徳を英雄的段階で実践したのは明らかである」。私たちは、彼の列聖へのお恵みを願いながら、ここでその祈祷文を印刷してマリアニスト家族の中でこの記念日を祝うことをお勧めします。

教会の中で絶えず働き続けられる主よ、

あなたは民の善のために、人々と共同体を通して、常にそのご意志を明らかに示されます。

あなたは、使徒としてギョーム・ヨゼフ・シャミナード神父を選ばれ、

福音に忠実に生き、人々の救いのために献身するよう、その活動を特別に導かれました。

そして、あなたに身を捧げたシャミナード神父と同じ精神で生きる望みを人々に抱かせ、

マリアの導きのもとに、教会に奉仕する男女の共同体を起こされました。

後継者であるわたしたちが、福者シャミナード神父の取り次ぎによって願う

「病人の回復」の恵みをお与えくださり、彼の聖徳を明らかにしてください。

罪の汚れのないおとめマリアによって、父と子と聖霊がいたるところで讃えられますように。

アーメン。



福者シャミナードへの祈りの意向

私たちは次の2名の病気治癒のために、福者ギョーム・ヨゼフ・シャミナードにノベナの祈りを捧げるようマリアニスト家族にお願いします。

マリア知子、脳出血による深刻な容態。これは日本地区、大阪の明星マリア会共同体の彼女の叔父、ペトロ烏山助雄師から要請された祈りの意向です。なお、マリア知子様は2023年11月14日に亡くなりました。ご冥福を祈りましょう。

Martin、マリア会員Gustav Arnoldの甥です。Martinは43才で11年間もすい臓がんで苦しんできました。数週間前に医師たちはこの癌が転移していたと診断しMartinは化学療法と手術の治療を受けます。この祈りの意向はシオン（スイス）の共同体メンバー、マリア会員Gustav Arnoldによって要請されました。

世界マリアニスト祈りの日



ソトゥブアの慈悲の聖母マリア聖堂 - トーゴ



エル・ピラール校 - マドリード、スペイン



ディーパハリ - インド



ラーンチ - インド



ムコンドの聖リタ教会 - ブラザヴィル、コンゴ民主共和



マリアニスト・センター - ゴヤン市、韓国



ローマ - イタリア



ホノルル ハワイ - 米国



アビジャン - コートジボアール



リムルの修練院 - ケニア

最近の総本部通信

- 訃報：14～19号
- 9月25日：総会連絡#1 総会準備委員会から第36回総会の代議員に3ヶ国語にて送付
- 10月30日：総会報第1号、第1付録、第2付録 第36回総会の総会準備委員会から全マリア会員に3ヶ国語にて送付

総本部日程

- 11月3日－5日：ローマでのマリアニスト家族世界評議会